

栃木県女子神職会発会に寄せて

一瓶塚稻荷神社

安蘇谷 章子



平成十六年五月七日、私達女子神職の仲間にとって長年の念願の会結成に、其の喜びは一入の物が有りました。

祭式にも服装にも男子と女子では、本庁規定で少し変る様に決められて居りますが、支部祭式では女子は少数の為、何も出来ない有様で服装も個々様々な有様でした。他県の講習会を見学させていただきました、其の違いに驚きました。私達の仲間の先人達の中にも、女子と言う事で悲しい思いをした人も数人居た事を想い、女性ならではの諸々の事柄を考え、県民の封建性なんて言っていられないと思えました。栃木県の女子神職会が全国最後の結成になった所以かも知れません。

今回女子神職会結成を見る事が出来たのを期に、県下女子神職も寄集い話し合いをしたり研鑽を重ね敬神の道に努力して行

きたいと思えます。

私達は県内各地の神社に奉仕して居りますが男子より女子の方が氏子と神社の関係を深める上でも次世代を担う子供達と神社との結び付きとか一般の家庭の祭り等を考えると女子の方が好い事も多々有る様です。これから女子神職が増える神社界の将来の事を思い、其の使命に心からの奉仕が出来れば幸と思えます。

間々田八幡宮

栗原 宏子



平成十六年五月七日、この日をもって、「県女子神職会」が発足したのです。―感無量です―

これまで、何かあるごとに、宇都宮の八坂神社に寄せていただきました。葭田容子権禰宜さん、宮司さん、皆様にお世話になってきました。この度も、事務局を受けて下さり、昼夜を問わず作業を進行して下さいまし

た。

また、この道を開いて下さいました神社庁の皆様、県内神社界の皆様、青年神職むすび会の皆様、そして、若い女子神職の皆様のお力ありがとうございました。

私が神職として、席を入れていただいたのが二十二年前「県内十三人目ですよ。」と言われたのが、印象的です。十三人もおいでになるのだと改めてうれしく思いました。そして、下都賀支部には、すばらしい先輩・荒川宮司さん、小林宮司さんにお世話になりながらなんとかここまで辿りつきました。

わからないことばかりでしたが皆様に励まされ過ぎましたことと感謝しております。

これからは、他県との交流も盛んになることと思います。多くのことを学んで、女子神職の一員として努力して行くつもりです。そしてこの会が、若さあふれる女子神職の皆さんの心の拠り所となり、活躍下さいますことを切にお祈りいたします。

今後とも、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

八坂神社

葭田 容子



今度、吉田庁長をはじめ関係の皆様のお心両面のご協力のおかげで「栃木県女子神職会」を発会することができましたこと、誠に有り難く心より感謝申し上げます。

現在会員三十九名、将来この数は益々増加するものと思われまます。全国でも一割強の女子神職が活躍している事は心強い限りです。発会と同時に「全国女子神職協議会」に加入いたしました。協議会や各県単位会と連携のもと会員各位の交流を図り自己の研鑽と資質の向上に少しでも成果を上げたいと思っております。

このごろは、女子神職のご奉仕も各方面で歓迎されている様です。祭式作法のしなやか華麗さ奉仕の心遣いから生まれた作法が喜ばれている様です。

しかし、今後この会の活動については、まだまだ手探り状態です。これからが大切であろうと思えます。会長をはじめ先輩方の豊富な経験と知恵、若い方の行動力を融合して神明奉仕は



智賀都神社

外鯨 泰子

もとより鎮守の森から次世代を担う子供たちを育み地域の発展にも尽くしたいと思っております。どうぞ引き続き暖かいお力添えとご指導を賜りまして、会員の皆様と共に素晴らしい女子神職会を作ってまいりたいと思います。

大國主命、日本武尊命など日本の神話には多くの

神々が英雄として書かれています。皆さんもこれらの日本神話は子供の頃は一度は読んだ事があると思われま。もしくは、英雄と言う単語で括るなら、『月光仮面』や『鞍馬天狗』それよりもかなり時代を進むのなら、『戦隊シリーズ』などで、少なからず英雄というか、ヒーローに一度は憧れたはずだと思います。実は私もその一人です。子供の頃によく、戦隊ヒーローのモノマネをして遊んでいました。西で悪にやられている人がいれば、疾風が如く大地を駆け助ける。東で白ウサギが皮を剥がされたと泣いていれば白い袋を

背負い助けに行く。南で、どこかの宇宙から刺客が現れば必殺技をあみ出して倒しに行き、北で悪代官が農民を困らせていれば印籠を翳してみる。兎に角、カッコ良いヒーローが、人々を困らせる悪い者達を成敗すると言うヒーロー物語の王道なこれらのストーリーが大好きで、いつしか私も困っている人々を助ける強いヒーローになるのだと、意気込んでいたし、それが夢でした。

しかし、そんなものは結局、御伽の国の話。実際は、宇宙から刺客などは来ないし、ネス湖のネッシーですら偽者だとされた世の中には到底、ヤマタノオロチは現れない。これでは、カッコ良くヒーロービームや剣で悪を倒せない。(その前に、剣を持ち歩いていたら銃刀法違反で捕まりそうです。) そんな空想を、空想だと分かっていながらも、どこかでずっとヒーローへの思いを募らせながら私は大人になりました。そして、今年、平成十六年四月一日に女子神職会が発会をした事から、少しずつどころか、大きく変わる人生の波と言うものがやって来ました。女性神職

が公の前に堂々と登場する機会が増えた事です。それにより、女性神職としての自覚が持った分、周囲の目を一身に受けるという事です。いや、本当はもっと前から女性神主さんは感じていた事だと思えます。それが、この様に公に認められるようになり、一般の方々との接触の機会が増えた事による、氏子を始め参拝者との見解の相違です。一般的に云いますと、神主のイメージは『男性で、わりと年齢が上。』だと皆さん口を揃えて仰います。

そんなレッテルが貼られた神主像に、『女性で、どうみても若い。』と言う神主は、あからさまに厭な顔をされます。一般の方から見れば、胡散臭いのでしよう。でも、古代を考えると、神と人々の間に立っていたのは女性なのですね。例として挙げるなら、卑弥呼なんて神主の原型です。それでも、現代に戻れば、そんなのはいのちの一貫みたいな事を言われます。公に出る機会が増えた分、こんな風に言われて傷つく機会も増えました。「いっそ、女子神職会なんて発足しないでひっそりと居たかっ

た。」なんて思った事もありました。それでも、逃げ出さないでいるのは、この憎いと思った会の発足での多くの女性神主の仲間との交流と、私の中に残っているヒーロー像からだと思っております。だって、ヒーローは困っている人がいれば助けるのです。実際は、目に見えて助けてあげられる訳ではないので、説得力に欠けるかもしれませんが、誰かを助けたいと言う気持ちには、どんな神主さんにも負けないくらい強いです。まだまだ技術的には男性、女性関係なく未熟ですが、気持ち先行で私なりの神主で行きたいと思っております。

剣がなくても、神と人々を繋ぐ役目は出来るし、翼がなくても皆さんの願いが届く様に祈る懸け橋になる。これこそが、私が思っていた真実のヒーローなのです。

ヒーローは夢物語ではないのだと、これから書かれるヒーロー列伝に加えて欲しいです。さて、そろそろ私が主人公のヒーロー物語が始まりそうです。どんなストーリーになるのか、乞うご期待と言う事にしておいて下さい。